

令和6年8月15日

8月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では下刈り、間伐作業が中心で原木生産は減少傾向にある。県北、県西地域ともに間伐材主体のため入荷は少な目。原木入荷が鈍くなり、製材工場の購買意欲も低下し、大きな荷動きは見られない。スギ材は製品の荷動きが鈍く3.0m柱材が弱気配、4.0m中目材は保合。ヒノキ材は3.0m、4.0m共に保合で推移。

群馬県では原木集荷は順調。虫害は多少散見されるが、今年は少ない。製材工場の操業率は人手不足のため通常の70%程度であるが、十分間に合う状況。首都圏の製品市場からの受注は低調で地場の仕事も少ない。売れ行きは多少回復したが、例年の70%程度と低調であることに変わりはない。在庫は全ての製品で多いが、通常の80%まで減少した。仮筋交いと間柱に多少の引き合いが見られる。

2. 米材

6月の米国住宅着工数は135万戸(年率換算)で前月比3.0%増と回復したが、前年同月比では4.4%減となった。一戸建てが98万戸と100万戸割れで振るわず。北米製材品市況は7月半ばに底を打ち反転したが、市場には警戒感が漂っている。米北西部ではこの時期に森林火災が活発になるが、今のところ大きな影響を及ぼしていない。米国、カナダの原木港頭在庫は問題のない水準である。米マツIS級並の8月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(8/2)は\$375/M、7月頭に比べ3.6%の上昇。

6月原木入荷は161千 m^3 で今年最高となった。1~6月累計では788千 m^3 (前年同期比13.5%減)。出荷は134千 m^3 で前月比ほぼ横ばい、1~6月累計では807千 m^3 (同11.4%減)。在庫は前月より増加し178千 m^3 、在庫率は1.32ヵ月。東京木材埠頭の7月製品入荷は11千 m^3 (前月比5.7%減)、出荷は15千 m^3 (同31.1%増)、在庫は44千 m^3 (同6.6%減)。国内最大手は集成材メーカーと歩調を合わせる格好で7月下旬より製品価格の値上げを表明し、市場に浸透しているが、ここ最近の急激な円高が今後どのような影響を及ぼすのか注視される。

3. 欧州材

第3・四半期(7~9月積み)の交渉が終盤戦にさしかかっていたが、急激な円高進行により日本側は一旦交渉を停止せざるを得ない状況。円高進行により産地価格の下落基調は止まるものと予想される。間柱類は喜望峰回りの遅れていた分が纏めて入荷したこともあり、急速に市場の雰囲気が悪化していたところに急激な円高も重なり市況は大きく混乱している。国内集成材メーカーの7月からの値上げで欧州産集成柱、集成梁ともに先高感が見られたが、円高急転でこれも混乱中である。東京港の6月製品入荷は19千 m^3 と前月比減少したが、7月は急増する見込み。出荷は16千 m^3 と低水準。在庫は42千 m^3 だが、7月は50千 m^3 を超える見込み。

4. 北洋材

産地では気温高く降雨が多く、夏伐採は低調である。中国からの引き合いは依然低調。中国の銀行の一部が米国の制裁を恐れてロシア向けの送金忌避は続いている。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調である。アカマツ原板のオファー数量は少ない。アカマツ完成品の価格は\$600/ m^3 が標準でシッパーは強気姿勢を崩していない。ロシア材の独歩高に警戒感はあるが、先行き品不足を見越して10万円台半ば以上が定着。アカマツ離れは大きくは起きていない。国内北洋材工場では一部にスポットの原板入荷があった模様だが、非常に厳しい状況が続いている。原板在庫が極めて薄く、現地挽き完成品の再仕分けが恒常化している。7月の製品入荷(東京+川崎)は産地の生産意欲の減退やコンテナ出荷不調で11千 m^3 と減少。出荷は11千 m^3 と低位安定。在庫は24千 m^3 。8月在庫は入荷、出荷とも少なく、24千 m^3 水準の維持が予想される。

5. 合板

合板用原木の入荷は順調だが、秋田、山形で発生した豪雨が出材に影響しそうだ。7月末に東西大手合板グループが8月受注分からの値上げを発表したことで、下げ相場にブレーキがかかる形となる。6月の合板生産量は20.8万 m^3 。うち針葉樹構造用合板の生産量は18.8万 m^3 、出荷量は17.6万 m^3 で在庫量は16.7万 m^3 (前月比8.4%増)となった。輸入合板はコンテナ不足による船積み遅延など多少の影響が出ている。為替も急激な円高に振れているが、運賃上昇で相殺され、国内価格にはとくに動きはない模様。6月の合板輸入量は16.7万 m^3 で前月比108.9%。特にインドネシア産が5.4万 m^3 と増加し、前月比125.0%。インドネシアの合板工場では対日向け生産量は20%程度の減産だが、それ以上の減産に追い込まれている工場もある。

6. 構造用集成材（国内産）

7月のラミナ入港量は通常の8割程度と少ない。需要低迷で在庫量を絞る動きも見られる。第2・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€290~310/m³程度で今後も上昇傾向にある。欧州製材メーカーの減産により欠品も危惧される。荷動きは全国的に停滞気味であるが、国内産集成材価格は原価、運賃の上昇により強含み。在庫は適正水準であるが、需要低迷で在庫を絞る動きも見られる。6月の構造用集成材の輸入量は小断面 22,573 m³（前年同月比 10.7%増）、中断面 13,626 m³（同 35.3%減）となった。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材（C材）の引き合いが強く、入荷は順調で高値高止まり傾向。燃料材は建廃の入荷が徐々に戻り例年並みになったが、慢性的に不足感は継続している。新規の破砕工場の開設の動きもあり、競合、値下げが懸念される。一部大手製紙会社では減産・操短（80~90%）を継続中。バイオマス発電系では旺盛な消費が継続している。チップ工場では国産材チップ原木の集荷増の基調は変わらない。製紙とバイオマスのバランスを見ながらの生産となっている。

8. 市売問屋

プレカット工場も戸建注文住宅が少ないためか仕事は少ない。スギ、ヒノキKD構造材の引き合いが少なく、活気のない状態が続いている。造作材ではスギが売れているが、スプルースは単価が高いためLVLが使われている。アカマツタルキはまだ価格は上げ気味であるが、ここに来て少し勢いがなくなってきた。盆明けの仕事の具合により単価が動くものと見られる。

9. 小売

首都圏のプレカット需要は若干出てきているが、依然として木材・建材の荷動きは回復していない。国産材構造材は引き合いも少なく、下げ止まりの状況。外材ではRW集成平角を値上げしたが、特に需要があるわけではなく、当用買い中心の静かな展開である。アカマツタルキ（30×40）に先高感、品薄感があり、仮需的な動きも見られる。ただし、3m物のタルキや米ツガ国内挽きの36×45などは価格も高く、品物も少ないため、徐々にLVLに変更となるケースが増えている。造作材の米ツガ、スプルースなどは高止まりで単価も高い。学校の補修工事や店舗の改装工事でスギの節付きの羽目板に纏まった注文が出ている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年8月15日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	→
欧州材	製材品	→	↗	↘
北洋材	製材品	↘	→	↘

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

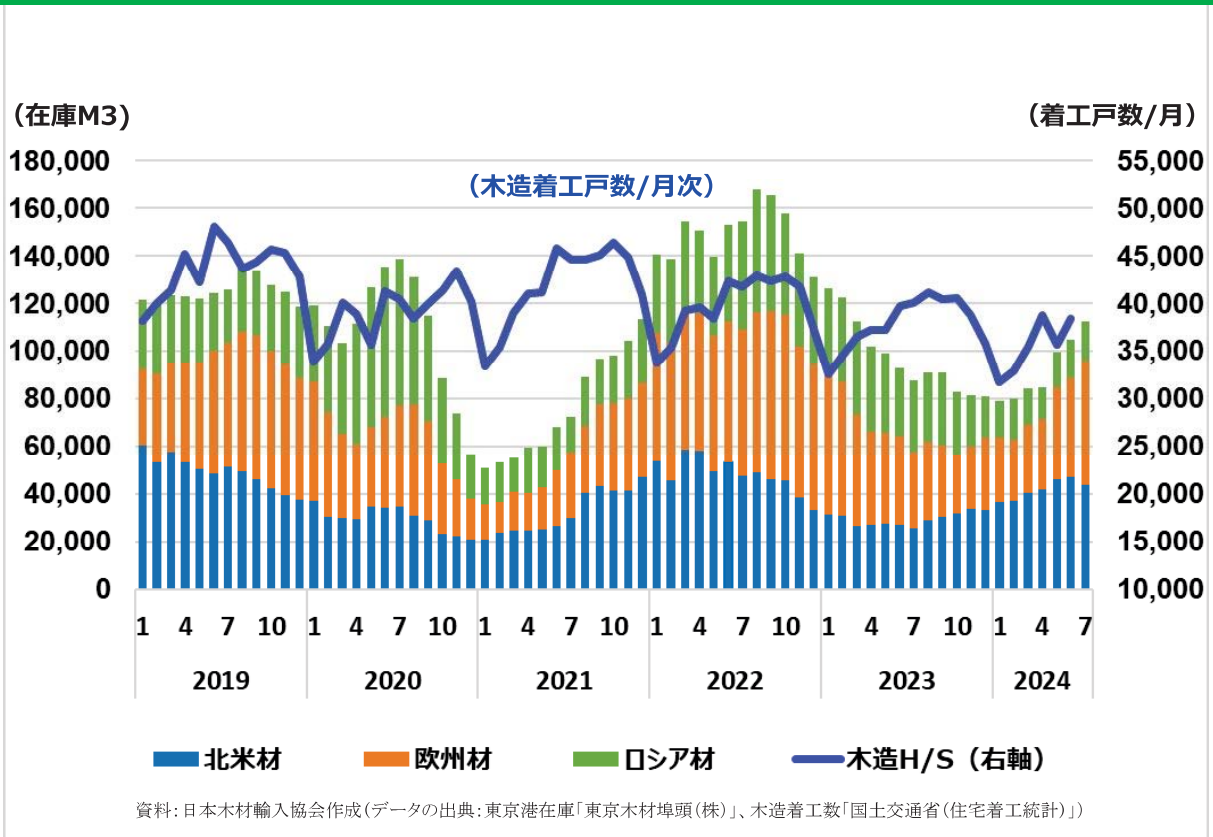
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13'	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↘
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
			アカマツ(KD) 30×40上級	→
	欧州産		アカマツ(KD) 24×28 積木	→
			ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↘
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↘
			タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

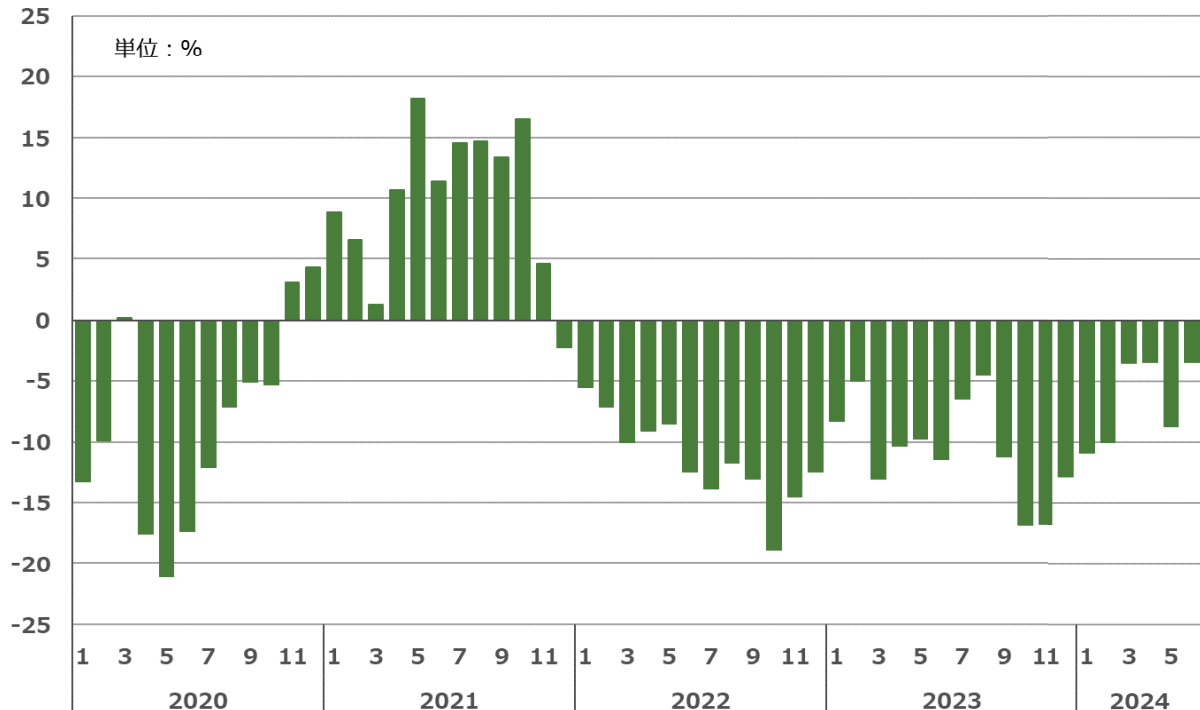
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

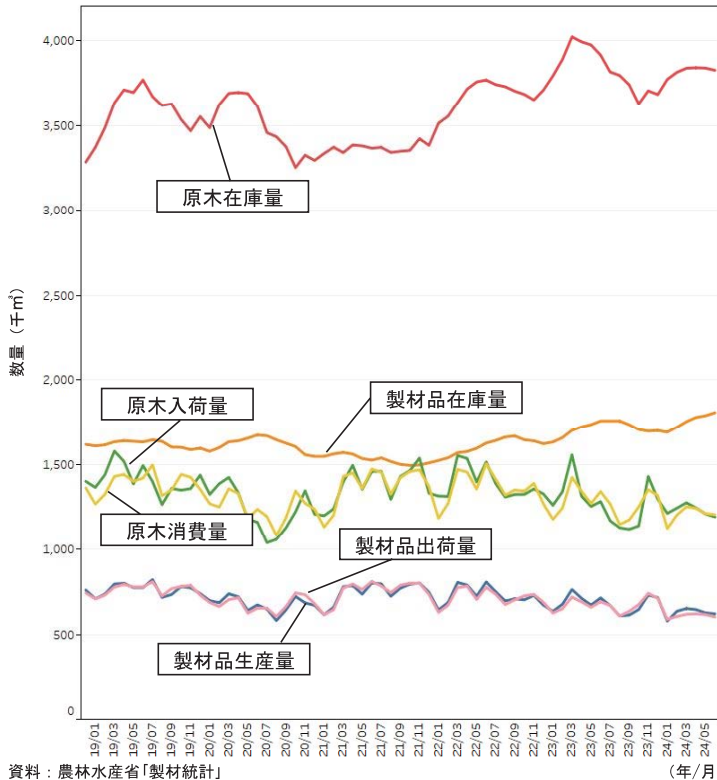


資料：国土交通省「住宅着工統計」

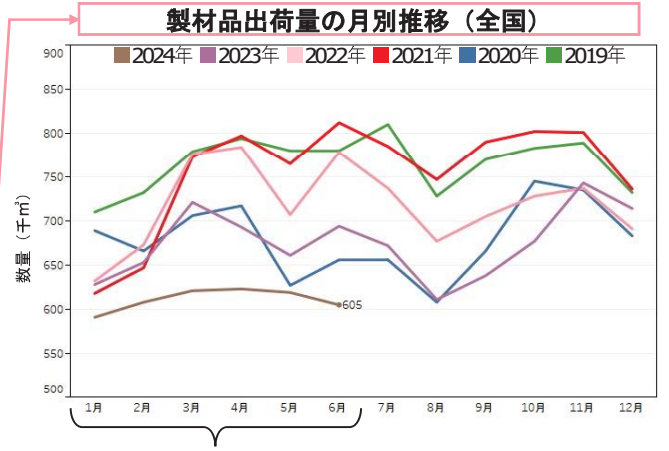
参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2024年1～6月の原木の入荷量は7,387千m³（2019年比84%）。
- 同様に製材品の出荷量は3,667千m³（2019年比80%）。



資料：農林水産省「製材統計」

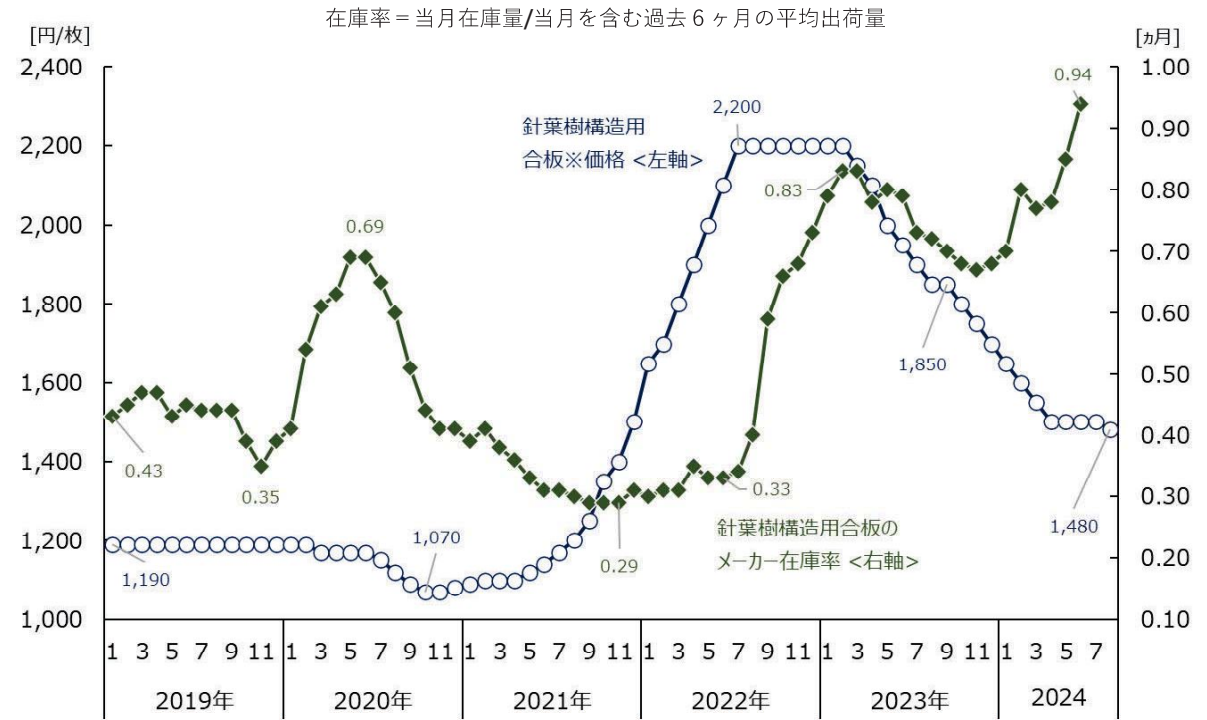


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～6月原木入荷量合計(千m ³)	8,794	7,818	8,155	8,639	8,018	7,387
2019年との比較*	-	89%	93%	98%	91%	84%
1～6月製材品出荷量合計(千m ³)	4,575	4,061	4,412	4,350	4,050	3,667
2019年との比較*	-	89%	96%	95%	89%	80%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

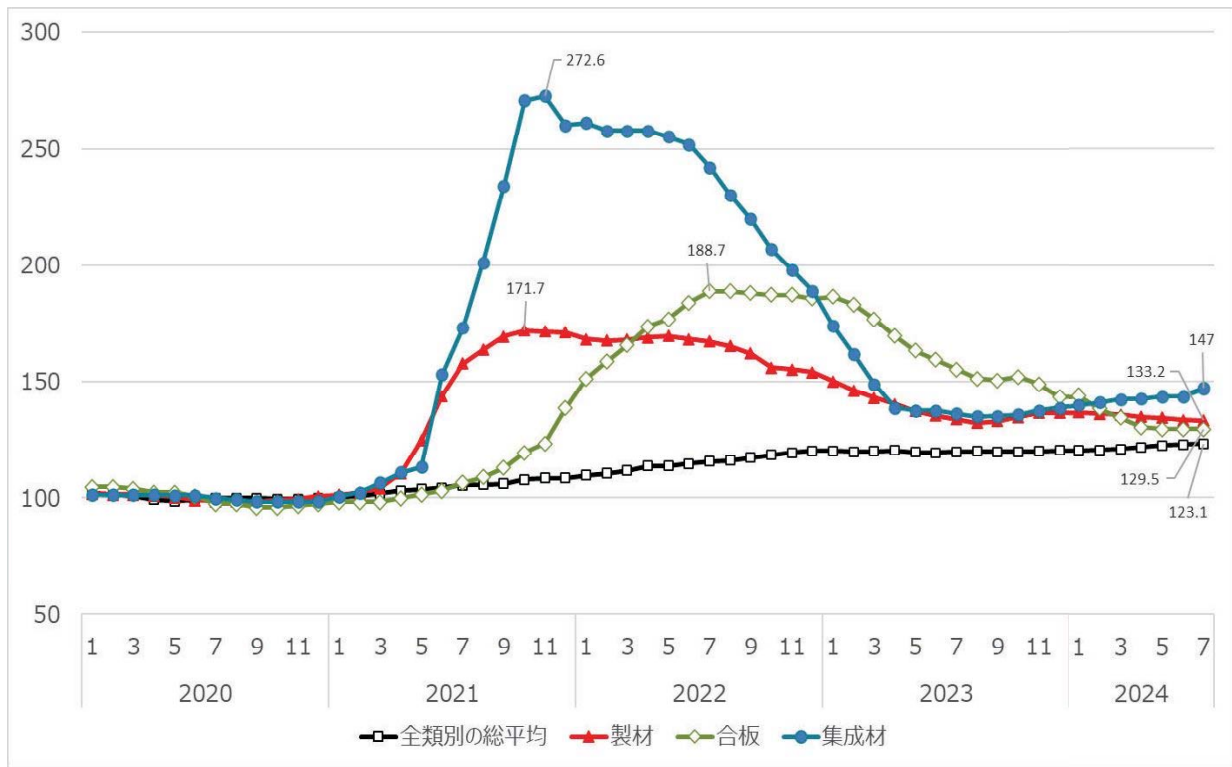
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

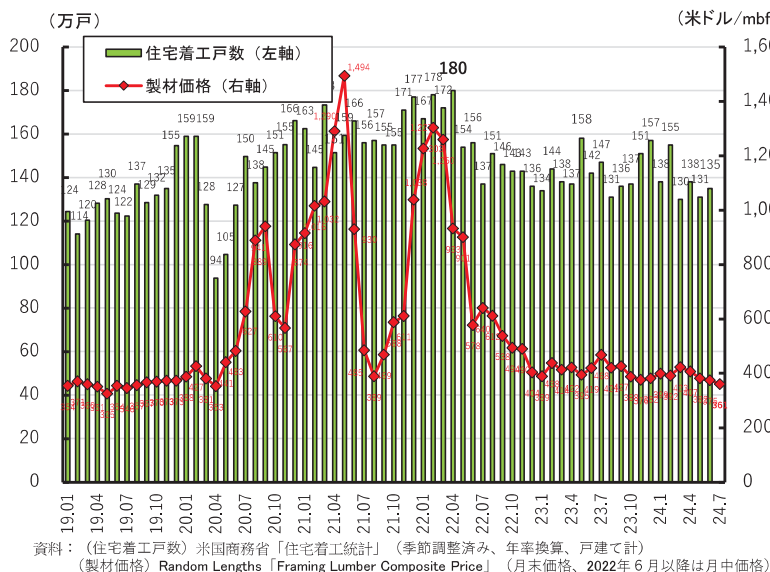


資料：日本銀行「企業物価指数」

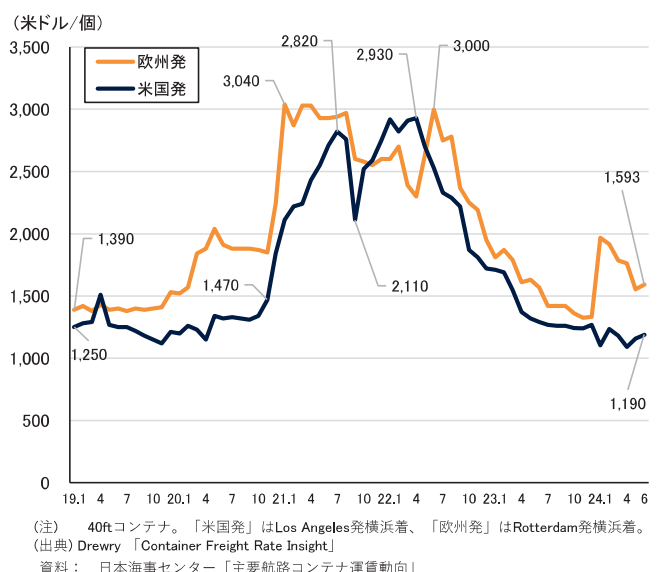
米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について (林野庁木材貿易対策室)

- **米国の住宅着工戸数**（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130~150万台で推移。2024年6月は前月比+3%増の約135万戸。
- **北米の木材価格**は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年7月は361ドル/mbf（前月比▲4%減）。
- **日本向けコンテナ運賃**は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が高騰。



米国における住宅着工戸数と製材価格の推移



日本向けコンテナ運賃の推移